

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		1/16-1/23	1/23-1/30	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.045	0.028
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.084	0.019
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.021
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.017	0.032
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.052	0.039
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.045	0.020
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.083	0.034
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.043	0.031

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		1/16-1/23	1/23-1/30	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.100	0.029
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.012

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第102回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(2018年1月16日~2019年1月30日)

102回目の大気浮遊じんの放射能測定は、セシウム137は平均0.038mBq/m<sup>3</sup>でセシウム134は観測されず、健康への影響を心配することはありません。これまで、この程度の放射能の数値は、通常、大気に浮遊している放射能の濃度よりずっと小さいと説明してきましたが、その自然放射能の大半は、元から岩石や土壌に含まれているウランが放射線を出しながら壊れてゆく過程で発生するラドンに起因します。したがって、岩石を使ったコンクリートや大理石で作られた建物からもラドンがでています。玉川温泉や三朝温泉などのラドン温泉は放射線量が高いことで有名ですが、自然放射線量のおよそ半分は、ラドンの放射線によるものです。